

番組「すたあと かぞえようなんばんめ」を活用した本時案

新潟市立新潟小学校 教諭 三星雄大

月
日

活動名 かぞえよう なんばんめ

活動のねらい 番組を視聴しながら「なんばんめ」かを当てるゲームに取り組むことを通して、順序数についての理解を深めることができる。

本時の展開

時間	主な学習活動	指導上の留意点
5	1. 番組を視聴し、活動に見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">「かぞえよう なんばんめ」</div> ・一番左にある。楽しそう、やってみたい。	○番組内の「なんばんめ」かを当てるゲームの場面では、子どもが自然とつぶやくことが予想される。そのつぶやきを認めて、次の活動につなぎたい。
10	2. 「なんばんめ」かを当てるゲームを行う。 ・紙コップは五個使おう。星の代わりにぼくたちは算数ボックスのブロックを使おう。 ・右から二番目にある。 ・正解です。	○二～四人グループになる。教室の広さに合わせて、一定の間隔を取って机を配置する。 ○番組で使用していたのは、紙コップと星であった。しかし、学級の実態に応じて準備する物は変更してよい。
5	3. 活動をした感想を出し合う。 ・やってみるとすごく楽しかった。 ・外れたときは悔しかった。もう一度やってみたい。 ・休み時間にも友達と一緒に遊びたい。	○時間があれば、「紙コップの数を増やす」「隠す物の数を増やす」など、ルールを付け加えて遊ぶことも考えられる。

★番組活用の別案

目印になる星の数を増やして遊ぶことにより、集合数も扱うことができます。例えば、五つの紙コップを使用します。目印になる星を二つ用意します。そして、相手に分からないように並べ替えます。このとき、右から二つに入るように動かすとします。すると、答える側は「右から二つ目」という答え方ではなく、「右から二つ」という答え方になります。「目」が付くか付かないかの検討をすることにより、順序数と集合数の意味が分かるようになっていきます。

新型コロナウイルス対策で配慮すること

- ・グループになるときは、机同士をくっつけないようにしましょう。二人組であれば番組にあったように、離れてゲームができるようにすることが望ましいです。
- ・物の共有は避けましょう。算数セットの中にあるブロックを活用するなどして、友達と道具のやり取りがないようにしましょう。